

平成五年度 総会・懇親会報告

平成五年十月十六日 午後一時～四時、
中野サンプラザ15F (寿の間) に於いて
総会・懇親会が開催された

* 議事および決議・承認事項は次のとおり。

【議事】
一、一般会務報告
基金・年会費制度・会報発行など新
会務推進の経緯、新制度への協力をお
願いする旨説明・報告し、承認された。

二、基金
「東京格致会運営基金」設定の経緯
および出資者(31名)の状況等報告。
(会報第一号P3上段参照)

三、年会費
会報第一号編集後記参照。
年会費(65名)十六万四千五百円の拠
出があった旨報告、了承を得た。

四、会計報告
平成四年度会計報告。
会計監査結果の報告は、別表のとおり
承認を得た。

五、会則

会則(案)(会報第一号P8参照)
を上程、原案のとおり承認、決定され
た。

六、顧問選任

会則にもとづき、会長の推薦により、
次の方々へ新顧問就任をお願いする旨
報告、承認された。

- 顧問 永井 岩 (T8学院)
- 顧問 長井 美 (15卒)
- 顧問 塚本 幸三 (19卒)
- 顧問 沼越 達也 (22卒)
- 顧問 宗国 旨英 (32卒)

七、事業報告

恒例の「庄原格致高校課外講座」へ
の講師派遣は、今年度は、細川会長に
依頼、平成五年十一月一日母校におい
て講演会が開催された。(P5参照)

【懇親会】

総会が順調に推移し、終了後、待望
の懇親会に移った。

田部顧問の音頭により乾杯！ 随時
懇談・交流の続くなか、校長先生、新
顧問他の方々のご挨拶をいただいた。
中でも、ご高齢をおして参加下さった
永井顧問、新卒・上京の小谷悟君のス
ピーチは、本会会員の最大幅を示すも
ので圧巻であった。
大盛会のうちに、次回の再会を約し
て全日程を終了した。

貸借対照表

(平成6年5月22日現在)

資産の部		負債の部	
定期預金	720,000	基金	740,000
普通預金	193,396	繰越金	176,396
現金	3,000		
合計	916,396	合計	916,396

収支報告書

(平成6年5月22日現在)

収入の部		支出の部	
年会費	354,500	会報1号製作費	95,790
寄附金	20,000	会報発送費	51,480
運用収入	539	通信費	29,520
雑収入	3,000	総会運営費	272,145
合計	708,039	雑支	32,708
		花環代田端氏	10,000
		御祝東京実業会20回記念	30,000
		次期繰越金	176,396
		合計	708,039

会務報告

【一】平成六年 第一回常任幹事会

本年一月二八日、丸ノ内「山水楼」にて開
催、本年度の事業計画その他について協議、
主要事項は左記のとおり

* 「平成六年度総会」の件

日時：十月二一日(金) 午後6時30分より

場所：山水楼(丸ノ内・国際ビル二階)

(詳細はP10の「総会の御案内」参照)

* 役員人事の件

・細川謙三会長より、会長辞任申出があり関
係事項協議。

・会計担当常任幹事・国原昭造氏が勤務先を
定年退職、九州へ転居された。後任委嘱。

* その他

「基金等の現状報告」「会報第二号編集」

「事業計画」等について。

* 【二】第二回常任幹事会

六月二四日、操山倶楽部において開催。
協議事項等、左記のとおり。

* 各種報告。 * 会報第二号編集の件。

* 事業「母校課外講座講師派遣」の件
講師に梶川実氏(25年卒)を推薦、同氏の
宇宙開発事業関与等の話をお願いすること
で承諾を得たので、計画を進める。

* その他。(略)

年会費納入のお願い！

本年度年会費(二、〇〇〇円)の納入をお願いします。

前年度は一三八名の方々より三五四、五〇〇円を納
入いただきました。中には数年分纏めて納入いた
だいた方もあります。今年度もどうぞよろしく。

平成5年度 総会懇親会 出席者

新積加明兼風友国横室酒金市坂新小細田	小藤坂白西八城桑迫近木松松住小岡藤佐森山沼渡八永	滑世
宅山藤賀利田広原山伏井森岡井見島川部	谷光井根谷谷口原沢田藤倉田島本山谷近戸田越辺谷井	良
一弘哲 卓哲 昭鶴孝久裕四昌義芳謙幸	昭智晴光英健貞 芳正圭昭 康真康博萬昭健達武義	* 年英
二三佳治馨蔵生寿造雄一幸雄象彦明元三雄	悟夫明輝徳樹司之進徳昭一子齋郎郎男美之夫郎也臣登岩	雄成
(42卒) (35卒) (32卒) (30卒) (28卒) (27卒) (27卒) (25卒) (25卒) (25卒) (24卒) (23卒) (23卒) (16卒) (10卒)	(H5卒) (56卒) (53卒) (46卒) (46卒) (35卒) (35卒) (33卒) (33卒) (32卒) (28卒) (27卒) (27卒) (27卒) (26卒) (25卒) (24卒) (23卒) (22卒) (20卒)	(T8学院) (校長先生) (庄原実業)

平成五年度

東京格致会総会懇親会

参加できなかつた方々の短信

京本 勇 (昭和二十二年卒) を表し、今後のご発展を祈ります。出席の予定でありましたが所用の為欠席させていただきます。別途所感原稿を送ります。

当日は戦時中の元中華航空の会がありますので、欠席致します。御盛会をお祈り致します。

藤原 一男 (昭和二十二年卒) 大変お世話になります。ご健勝を祈っております。会報を楽しく拝読させていただきます。

体調が悪く、参加出来ず残念です。参加された皆様の御健勝をお祈り致します。

秋山 雄三 (昭和二十五年卒) 体調が悪いため、総会・ゴルフコンペ共、欠席します。

安全協会行事と重なり総会欠席のこと申し訳ありません。

藤岡 薫 (昭和二十七年卒) 年会費二千元、ゴルフコンペ分千円、計三千元送金します。両会の盛会を祈ります。

昨年夏、二ヶ月入院、本年六月末退社などで体調が優れませんでしたので欠席。

田中 謙治 (昭和二十五年卒) 8月20・21日、神戸にて多くの恩師・同級生と人によっては卒業以来という人もあり、久々に広島弁の飛び交う楽しい一時を過ごすことが出来ました。諸兄の御多幸を願っております。

五十嵐 三郎 (昭和二十年卒) いろいろお手数を煩わし恐縮です。基金抛出の件クラスメートと相談する機会が未だなく、おかれていましたが、取敢ず単独の考えで、最低の1口ですが会費と共に別途送金致します。

福島 正徳 (昭和二十五年卒) 当日「国際経済学会」大阪市大に出席の為残念ですが欠席させていただきます。

堀井 昌洋 (昭和二十年卒) 会費は5年分振込みました。会報ご発行のこと、関係者の皆様のご努力に敬意

森田 千里 (昭和二十五年卒) 会報第一号の御送付ありがとうございます。八谷先生の、松原をデザインなさった版画の御紹介、本当に大切な記念品ですね。立派な版画の横に私の松原を訪ねての感想文をおのせ下さり光栄です。会の御発展をお祈りいたします。皆様によりしくお伝え下さいませ。

森田 千里 (昭和二十五年卒) 会費は5年分振込みました。会報ご発行のこと、関係者の皆様のご努力に敬意

奥平 博子 (昭和二十八年卒) アフリカ(ケニア)と日本を往復して

インドのマナリーに山小屋を建てました。五月から十一月までは、インドで生活していますので欠席します。

尾野 寿美子 (昭和二十六年卒) 御返事おくれました事お詫び致します。勤務の都合で欠席させていただきます。御盛会をお祈り申し上げます。

高野 美代子 (昭和二十六年卒) 会報第一号の御送付ありがとうございます。八谷先生の、松原をデザインなさった版画の御紹介、本当に大切な記念品ですね。立派な版画の横に私の松原を訪ねての感想文をおのせ下さり光栄です。会の御発展をお祈りいたします。皆様によりしくお伝え下さいませ。

田辺 良成 (昭和二十六年卒) 会報の発刊心から歓迎申し上げます。今回の総会残念ながら出席できません。役員の皆様方には御苦勞おかけいたします。会のいっそうの発展をお祈りいたします。(返事がおくれました)。

長谷川 敏忠 (昭21/4、23/3在学) 今春旭硝子(株)専務取締役を退任、関係会社の現職就任しました。当日は残念乍ら先約あり。

住んでいます。十月十日より又出かけますので、残念ながら出席出来ません。皆様によるしくお伝え下さいませ。

山坂 瑛子

(昭和二八年卒)

会報ありがとうございました。懐かしく拝読致しました。10/16は先約があり、残念ながら欠席いたします。

久保 未沙

(昭和二九年卒)

広島県の隣りの山口県に再就職しました。いつの日か東京に来ましたらよろしく。

宮本 英輝

(昭和二九年卒)

当日は他の行事と重複の為、出席できず申し訳ありません。次回は是非参加したいと思えます。

山口 公則

(昭和二九年卒)

年会費二千円振込みましたのでよろしくお願ひします。

信清 治

(昭和三一年卒)

石川島ゼットサービス出向のため残念ですが出席出来ません。次回を楽しみにしております。

戸井 千鶴

(昭和三二年卒)

一度は出席したいと思えますが、同期の方とか顔見知りの人が見当たらないので...どうしても足が遠のいてしまいます。格致会々報大変感銘深く読ませて戴きま

した。役員の皆様へ感謝致しております。

西谷 睦子

(昭和三二年卒)

お世話になります。年に一度故郷を訪れますが、その都度変わりゆく姿に時代の変化を感じ、ちょっぴり淋しさを覚えます。皆様の御健闘を祈り上ます。

吉岡 公義

(昭和三五年卒)

昨年も失礼し又今年もで、申し訳ありません。月々金は会社を休みづらく、土日は健保の体育行事とおつき合いも多くバツテングして、失礼してまいります。

総会に参加できなかつた方々の短信(続き)

助政 千尋

(昭和四十年卒)

頑張っております。事務局大変ごろうさんですね。頑張ってください。

花田 和教

(昭和四十年卒)

会報発刊おめでとうございます。これからも期待しておりますので、よろしくお願ひ致します。

井上 由夫

トシエ

(昭和四一年卒)

お世話になります。末信丈夫の弟です。そのうち機会をみて顔を出したいと思えます。経費節減の為、案内状は由夫・トシエ一本にして下さい。

戸丸 久恵

(昭和四一年卒)

返事がおくれました事、お詫び致します。

末信の弟さんの「こうちゃん」仲良しだった野津山でございます。皆様お変わりご座居ませんか。

今回は自治会の行事が予定され、残念ながら欠席させていただきます。会のご発をお祈り申し上げます。

宮角 孝雄

(昭和四一年卒)

今回の総会には仕事の都合で残念ながら出席できませんが、「会報」楽しく読ませていただきました。会の発展を心から夫婦共々祈っております。

守長 和子

(昭和四一年卒)

昨年一昨年と出席し、楽しく過ごさせて頂きました。今回は残念乍らお寺にて法要が有るため、欠席させて頂きました。東京格致会の名簿残部がございましたらお送り頂きたいのですが... (紛失しましたので) よろしくお願ひ致します。

八代 節子

(昭和四三年卒)

先輩方の御活躍の様子、たのしく拝見いたしました。特に母校便りにはなつかしい校長先生のお名前も見出し、古文の藤井先生等はどうしていらっしゃるか...と過ぎ去った年月を思う時、我が身が恥ずかしく思われる時もあります。年ばかりとってしまつて!!

(藤井先生には、「奥の細道」の話聞くのが楽しみです、私の主人の郷里に先生の姿を思い、なつかしくて...)

当時長期休暇をとって東北を旅しておられた先生の行き方は、20年過ぎてみると何と自由で自分に正直であったと、少々うらやましく思いました。どうかお元気でいらっしゃいます様。

二十年ぶりに世良先生のお顔を拝見しました。当時英語の先生で副担任でもありました。卒業して本日に月日が流れましたが、やはり、私の青春です。様々な思いが格致にあります。

残念ながら出席できませんが、ご連絡感謝致します。みな様によるしくお伝え下さい。

同級生も参加していると聞き、今年こそはと思つていましたが、子供の学校の行事が入つてしまい参加出来なくなりました。どうか皆様お体を大切にお過ごしください。

森田 深雪

(昭和五七年卒)

とても残念ですが当日サッカーの試合のため出席出来ません。来々皆様に会えるのを楽しみにしております。

基金「本会運営基金」の報告

基金については、会報第一号にも掲載しました「趣意書」の中に「無償の株主、一口一万円・締切り掛けず」とありますが、会員の皆様へのPR不足も懸念しております。平成六年五月二十日現在四二名の方々（基金出資者のご芳名は後記）のご賛同を得まして、七四〇、〇〇〇円（内訳・定期七二〇、〇〇〇円、普通二〇、〇〇〇円）の基金が集まっております。

基金を拠出頂いた方々には感謝します。会員約七五〇名の内、一八・四％。担当者としてはこれから情報を収集して適切なPRに努めたいと思っております。何卒、会員の皆様各年次でクラス会等も行われると思いますが、その際は必ず「基金・年会費」を話題の一つに選んでいただき、大きな輪に育てるよう是非ご協力下さいませようお願いして、ご報告といたします。

「基金出資者」芳名

（卒業年次・50音順）
（平成六年五月二〇日現在）

Table with 2 columns: (氏名) (年卒) and (氏名) (年卒). Lists names and graduation years of fund donors.

母校課外講座・報告

「私の歩いて来た道」 (講演要旨)
第五回庄原格致高校課外講座



細川 謙 三
(東京格致会会長)

私は昭和十六年、格致中学を卒業して広島県庁農政課に就職した。月給多分三十円足らず。仕事は麦・稲作・桑の郡別作付面積と収穫予想集計、面積増減の理由調査と収穫の増強をはかるということだった。しかし私はその勤務を十月の初めに、辞表を出し帰郷した。

この経歴には背景がある。私の生まれは比婆郡美古登村（現西城町）大屋。中農、父は材木商であった。当時、私の部落から中学進学者はほとんどなく、富裕な二、三の家の子弟が庄原実業学校に行くだけだったが、私は父への小学校長の熱心なすすめで格致中学へ進んだ。

中学五年の時、衝撃的な忘れ難い一件が起こった。夏期講習のある時間に、進学組のクラスの中から級長の私は突き上げを食った。「就職組と同じに水泳や野球などレクを」とと学校に要求しろと言うのだ。一晚考えた上、翌日一時間目の英語の時間に、クラスの意見として言ったところ、その教師は烈火の怒り、資料を破りすて教員室へ。私は教頭に呼び出され、体罰を受けた。その後教頭はクラス全員に私が要求した理由を一人々々質されたが、驚いたことに全員がそのようなことを級長に要求したことはないと言ったのである。

私は全く人間不信におちいった。二、三学期の学業放擲、意地での六高受験と失敗、卒業時の前例のない五ヶ年間成績優良賞受賞。帰郷して父の手伝いでもと考えていた時、田坂校長から呼び出された「とも角、広島市に出て刺激をうけ、もう一度将来を考え直せ」と（校長は二学期以降の学業放擲の理由を知らなかったのである）。「本人が希望すれば何時やめてもよい」との特約で就職。これがなげ県庁に就職・離職したかの事情である。

やめて帰郷、父の怒り。広島高師に受かったが校長から「どうしても高等学校を受験せよ。学資も出資者援助を」とのことでも父も説得され、六高へ。後、東大、兵役と復学、東京銀行勤務。異例の五三才監査役。（中略）*（注）

私の人生の思い出に残ることの中で、今日の私を育てて頂いた田坂周六校長の御恩は忘れることは出来ない。後に六高には吉岡君・茶園君・中島君と一年に一人ずつ入学したが、これは田坂先生が如何に熱心な教育者だったかという証拠である。先生の御逝去を知ったのはずっと後で、勤務先のニューヨークから帰郷、御遺族を訊ねて、因島が見下ろせる尾道の墓参りをし、御冥福をお祈りしたものである。

（注）おこわり）文中、「六高」監査役」の部分は、別稿として次号に...との了承を得て、本号では略記として頂きました（編集委員）

東京格致会ゴルフコンペに参加して

住 本 康 郎 (27年卒)

去る六月九日、細川会長のメンバーコースのレインボークントリークラブにて、第十回東京格致会ゴルフコンペが開催されました。私は二度目の参加でしたが、初参加の人も多く、新ベリアのHDCPで四組十四名が、梅雨入りでしどしと雨の降るなかスタートしました。私の組は二十七年卒の小山君、友広君、腕前の知れた仲間同士三人のラウンドでした。

前半はグリーンに水がたまるほどのコンディションのなか、悪戦苦闘のすえ百八でラウンド、百八十ヤードのショートホールでニアピンがとれたのが唯一の慰めと思っていたところ、HDCP三十六をいいただきNET七十二のパープレイとなり、思いがけず優勝の栄に浴しました。ネオストジョンのスタート前の申告と結果では、皆さんから三十ストローク多く、苦戦の様子がかがえましました。

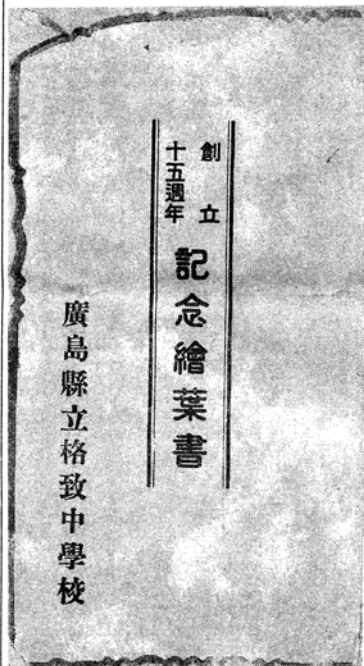
表彰、自己紹介など空気あいのパーティーのなか、次回幹事は、室伏・兼利・住本が担当、土曜日に開催するなど多くの人が参加できるようにと話し合われました。ご案内の節は、多くの人のご参加をお待ちしております。



記念品紹介

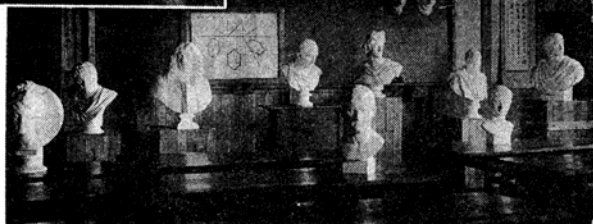
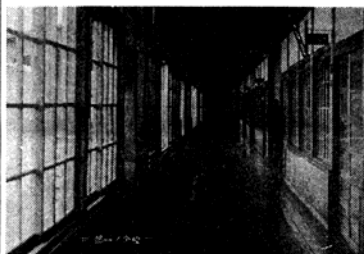
広島県立格致中學校 創立十五周年 記念繪葉書

昭和十六年十二月撮影



▲ (ケース)

校舎ノ一部
特別教室ノ一部

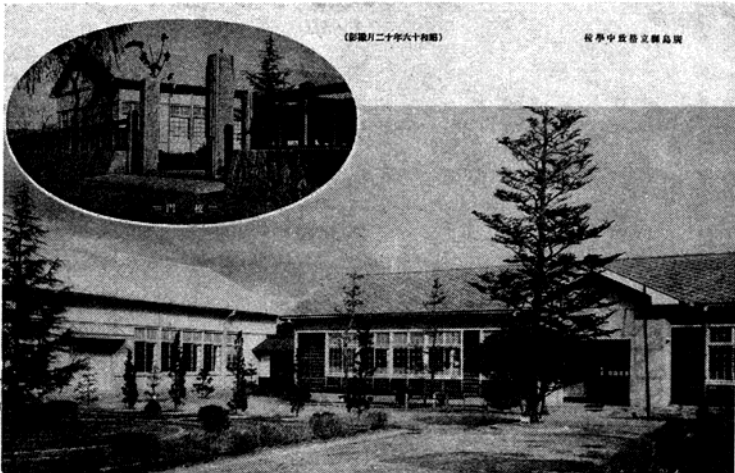


珍品をご紹介します。昭和19年4月入学式の日に入手した繪葉書です。

撮影=昭和16年12月、太平洋戦争突入の頃！かの火災で全焼した母校の、懐かしい姿です。

(会員随想の欄に関連)

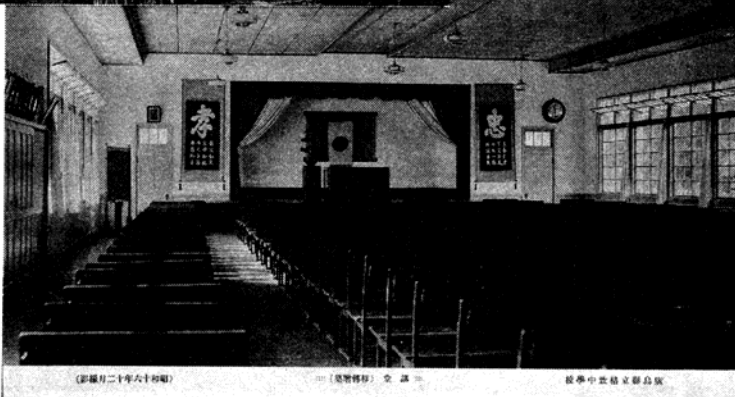
(本品=横山鶴雄保有/会報第1号紹介記念品も)



▲ 本館(職員棟)講堂
正門(左上)

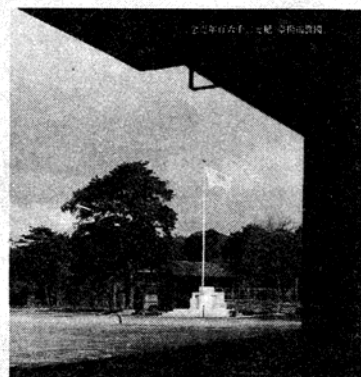


◀ 全 景
田坂學校長



▲ 講 堂(移轉増築)

奉 安 殿
國旗掲揚臺(紀元二千六百年記念)



(影攝月二十年六十和曆)

祝學中並格立縣島廣

会員随想

思ふ儘に

永井 岩

(格致学院 大正八年入学)

東京格致会の幹事長横山さんから、会報第二号に何か書けとのお誘いを受けたので、それにお答えしようと思いを執って見たものの、私が格致学院に入学したのは大正八年だから、今から数えて七十五年以上も前のことになります。

従って、当時の思い出は全くと云っていい程忘れて仕舞い、幽かに想い浮べるのは、あの古呆けた校舎で今は懐かしい友と共に勉強したことと、比較的広かった運動場で、私は投手をやっていたので野球に現を抜かしていたこと位しか書くべき何事も無しというのが当たっているかとおもいます。

しかも当時の先輩同僚で共に上京し、親しくご交誼願った方々も、今は三倉寛一先輩(品川区在住)を除き全部物故されておられ、相談する人もなく、淋しいと言いか限りなき悲哀を感じる今日この頃と言うのが実情であります。

そこで横山さんのご期待には副わないけれども、お許しを頂いて吐切れ吐切れではありませんが、思いに委せて私の気持ちを書き連ねて今は遠き格致学院を偲ぶことと致します。

我が母校格致学院は、皆様ご承知の通

り、漢学者であり人格者であられた故小田源吉先生が「格物致知」の精神に徹した人材を養成しようとする大理想の下に創立され、自ら教鞭を執り、親しく指導に当られたという由緒ある学校で、全く他に類を見ない、誇り高き学校であります。

私が入学したときは、既に小田先生は逝く、専ら国語・漢文・英語・数学につき可成り高度の教育が施されておりました。

一年有余の在学期間で、私は大蔵省関係の役所に就職し、二年余りの勤務中に人間は学歴が無くして将来性が無いと信じ、その職を辞して新設の中学校四年生に編入し、その学校を卒業するというところに成るのですが、中学四年編入に際してどれ程格致学院の勉強が役立ったか、今は格致学院に学んだお陰と、心から喜んでおるものであります。

私は中学校を卒業後再び大蔵省所管官庁に就職し、その間色々資格試験を受け、重要な職務を経て、年令五十二歳にして大過なく退職できた訳であるが、学歴のない私が今日一番頭に浮ぶのは矢張り格致学院での苦労が実ったような気がするのであります。

格致学院は、創立後名称が格致学院から現在の県立庄原格致高等学校まで幾つ変わったかは別として、同じ格致の系統を継ぐ学校であり、そこに学んだ者は同志であり兄弟姉妹であるといえませう。

私は、過ぐる総会に出席させて頂き、出席者が少数であるのに驚き且つ失望し

たことを特説したのであります。

格致総会は同窓会だと思いたいのですが違いますかしら。若し私が思う同窓会であるとしたら、なぜもっと澤山の会員が出席してもよさそうなものと思うのですか如何なものでしょうか。

それには各自が出席し易い日を選ぶとか、色々研究すべき点はあると思えますが、年に一回の総会で済むの大勢の集りがあって、お互いが郷愁に慕る所に団結が生まれ、仲良く生きて行けると確信するものであります。

年老いると何だか無性に人が恋しくなり、元気で格致会総会でお会い出来、お互いに扶け合ふような団体にしたいものと熱望し、またの機会を約束し皆様の健闘を祈って、筆を置きます。

思いつくままに

守 長 和 子

(旧姓 倉本)

(昭和四一年卒)

今回はからずも私ごとき者に原稿の依頼を頂き、文章を書くなどという事は、小学校の作文以来のことで、ほとほと困り果てましたが、思いつくままに格致会総会参加の感想等を書いてみたいとおもいます。

昭和四十四年遠い地の横浜へ嫁いできて、子供三人を育て、なれない環境の中で無我夢中の内に過しました。子供も大きくなりフツと振り返ってみると周囲には高校生時代の友人は誰一人としていま

せん。懐かしさと心さみしさが入り混じって郷愁に誘われていたころ、思いがけず格致高校の東京同窓会総会の案内を頂き、一度行ってみたいと思いつつ数年が過ぎていきましたが、そんな折、妹が千葉の方へ転居してきて、勇気百倍！二人で参加してみました。

懐かしい顔というよりか(同年代の参加者が少ないので)故郷の地名・出身中学等を聞き、学生時代のこと鮮やかによみ返ってきて、年令の差も忘れて話に花が咲きました。

学校からは校長先生・他もおみえになり、母校の状況を話して下さり、一段と躍進している様子を誇らしく思ったりしました。

二度ほど出席致しましたが、もう少し若い方の参加が多くなればよいのと同時に、女性の参加が非常に少ないので残念でした。卒業生各年度毎に代表を決めて連絡をしていくと、もっともっと大きな輪に広がるのでは? と思いましたが、如何でしょうか。

発足当時から役員の方々の皆様の後尽力は並大抵の事ではなかったと存じます。どうぞ一名でも多くの方の参加が有りますように希望し、又出席させて頂きたく楽しみに致しております。

会員の皆様も是非一度参加されてみては如何でしょうか? きっときっと懐かしい楽しい有意義なひとときが過ごせると確信いたします。まことにお恥ずかしい文面で申し訳ございません。これから会のますますの発展と役員皆様の御

健勝を祈念しつつ終えさせて頂きます。

昭和初期の母校の思い出

田部 幸雄
(昭和十年卒)

私は昭和五年に格致中学に入学した第六回生の一人です。

当時は不景気のどん底の時代で、特に農村は大変な時代でした。其のせいかわ和五年度の一年生の入学者は僅か十六名に過ぎませんでした。其の内訳は、旧敷信村五名、庄原町及び旧峰田村各三名、其の他五名でした。

学校の廃校問題が取り沙汰されたものこの頃でした。

其の年、新しく田坂周六校長が着任され、鐘や太鼓を叩いて生徒募集に奔走された結果、翌年の補欠募集により十六人組もようやく四十五名になりほっと致しました。しかし十六名の内卒業出来た者は十一名に過ぎませんでした。

前の同窓会長だった荒木君も十六人組の一人でした。

この様にして廃校問題も一応落着いて参りました。現在の格致高校の隆盛を見るに付け隔世の感があります。

当時私は余り真面目な生徒ではなく、二年生の時末次教頭と教室で一時間に亘り、口論となり激論を交し、翌朝の朝礼時全校生徒の前で田坂校長より名指しこそされませんでした。が、酷く叱責された事がありました。

三年に成ってからある事件を契機とし

て心機一転一応真面目な生徒になり、卒業の頃には田坂校長や末次教頭にも見直され、優等で卒業することが出来ました。

当時は軍事色の強い時代でしたので、軍人に成るべく、盛岡高等農林学校(現岩手大学)の獣医科に進み、陸軍獣医部委託生徒と成り、任官して陸軍獣医学校を卒業、血書して第一線歩兵連隊を志望



昭和14年 格致同窓会(於東京)記念写真

(田部幸雄氏提供)

前列右より 田部幸雄氏、末次教頭、田坂校長、池田巳代治氏、木村一夫氏

し、念願叶って、中国・ビルマ・インド(インパール)作戦に参加、九死に一生を得て二十一年帰国復員致しました。

終戦後は種々の職業を経て、天職の獣医師として、駒沢動物病院を開業し今日に至っております。

私も今年喜寿を迎えることに成ったので、最近、自分史を書いて見た所です。参考迄に東京格致会にも一冊寄贈させていただきます。

一戦中卒業生の回想

尾 関 規
(昭和十八年卒)

東京格致会の御発展を心からお慶び致します。

此度、幹事長横山さんからの投稿の機会を与えてくださったので、なつかしさの余り筆をとりました。

私達の入学した年は、日中戦争二年目の昭和十三年で、卒業は真珠湾攻撃の二年後の昭和十八年です。その間、昭和十四年にはヨーロッパ世界大戦、昭和十五年には日獨伊軍事同盟締結があり、文字通り世界的な大動乱の真直中で中学生生活を過していた訳です。当時の表現で、非常時”下にありながら基礎学力習得と体力の養成が果たせたことは恩師のおかげと常々感謝しております。

昭和十三年の入学生は、二学級一七名で、当時の校長は田坂周六先生、教頭位藤義貫先生、二十数名の先生方の熱心な御指導をうけることができ、恵まれた環境でしたが、日々戦火は激しくなる時でしたので出征された先生方も数多く、明日何が起るか知れない不安定な学窓時代であったことはいなめません。

当時の設備を概観しますと、メインの普通校舎が二棟、特別教室、本館(職員棟)・講堂各一棟がこじんまりと配列し、校庭の周囲にプール、武器庫、奉安殿等が点在しておりました。普通校舎のうち一棟はガタガタの旧校舎でしたが、五年生専用で、下級生としては気の毒な眼で

怖々と垣間見ておりました。

屋内設備に比して、高壮な自然環境は御承知の如く抜群と言っても良いでしょう。農場を挟んで創立者小田源吉先生旧宅が保存されており、庭の草木を教材にしての入学当初ののどかな生物の授業が思い出されます。

戦時中の学生生活の常として、軍事調の規律と服装で統一され、軍事教練重視の硬教育が基調となっていたが、入学当初の応援歌の練習、運動会、援農作業、植林作業等、授業以外の思い出も多い。

戦中・戦後の影響を強く受けた年代として、多くの人々が挫折を繰り返して苦勞の末、志望した道に進むことができた様に見うけます。格致中学時代の質実剛健の精神の実践の結果ではないでしょうか。

以上格致中学五ヶ年の生活を思うにつけ、諸先生、諸先輩の御指導と級友諸兄の暖かい交友に心から感謝致します。皆様の御健斗を祈りつつ擱筆致します。

(お願い)

各年次卒のクラス会は、少くとも年一回は行われているものと思われまます。東京格致会を大きな輪に育てる為に、各年の世話役・代表者の氏名・住所・電話等を奥付の連絡所へご一報下さい。担当者としては、心からお待ちして居ります。

(T)

東京格致会に寄せて

田 辺 実
(昭和四十年卒)

「目には青葉、山ほととぎす、はつ經」の季節到来。新入社員および新入生のはつらつとした姿が、目につく今日この頃ですが、皆様には如何お過ごしでしょうか。

三十年前の修学旅行で先輩有志の方々から差入れを頂いた時、東京格致会の組織があることを初めて知りました。

二十五年前に上京しておりましたが、アパートの契約の関係で住所変更等の連絡がうまくいかなかったのか、十年目位から東京格致会開催の案内状を頂くようになりました。以後、毎年案内状を頂いておりますが、金曜日の夜六時から開催が多く、勤め先の会議と重なるので、ほとんど失礼させてもらっております。通算二回程度しか出席しておりません。

機会があれば出来るだけ出席させて頂くつもりであります。

先日、東京格致会の名簿を見る機会があり、ついでメンバーの数を調べたところ八九九名でした。十年前の名簿ですから現在は千名は越えていると思います。

創立九十周年記念格致会会員名簿によると約一万三千二百名の格致会会員の十分の一の方々が東京に集まっていることになりました。ここまで礎を築いて来られた先輩諸氏に深く感謝申し上げます。

小生共、昭和四十年卒のメンバーは五年前に卒業二十五年記念学年会を郷里庄原で行ないました。これがきっかけで、毎年四十年卒東京格致会を行っております。十三名のうち半数以上が集まり、学生時代へタイムスリップしております。

最近なかなか兄弟が集まる機会がなくな

りました。郷里に七人兄弟が集まった時などは、姪、甥を交えて出るのは、格致時代の学生生活、先生方の思い出、校舎・建物の変遷等の話題で夜を徹して話し明かされ、まさに小格致同窓会となる有様です。比婆西高校、庄原高校、庄原格致高校の三高校時代の話題ですから如何に豊富かわかり頂けると幸いです。

集いの輪が広がることを願ってやみませぬ。東京格致会の盛会をお祈り致します。

校章の由来

本校の前身、旧格致学院時代の校章を継承したものである。桐の紋は、学院創立者小田源吉先生の家紋の五三の桐をかたどったもので、創造と伸展とを象徴している。

会員の著書・著作の紹介

◎『波乱のわが人生』

インパール作戦従軍記ほか
大先輩である田部幸雄顧問より、この立派な「自伝史」を頂戴した。

生い立ちから受験、陸軍獣医として太平洋戦争従軍、そして敗戦、帰国の長い厳しい道程をつぶさに描写されている。
格致会備品として保管、読みたい方は遠慮なく申し込んでください。

＊ 「流浪のひと生と思ふ寂しさや
神戸山の手異人館の前」

この歌は、細川謙三会長の歌集『異人館にて』のなかの一首。歌人として六高・東大時代から精進されて、現代歌人協会賞なども受けておられる。

左記四点の歌集が貸し出し可能です。

- ◎『歌集 驢鞍集』(一九八一)
- ◎『細川謙三歌集 冬の公園』(一九八五)
- ◎『異人館にて 細川謙三歌集』(一九八八)
- ◎『細川謙三初期歌集』(一九九二)

◎写真集『般若心経の世界』

中村元(監修)・丸山勇(撮影)

は、心経の二六二文字を五五五句に区切り五枚のカラー写真(自然・仏像・人間)で表現した画期的出版。

企画・編集制作したのが坂井昌彦副会長。当会に一冊寄贈いただいております。

◎『胃の不調』

気になる症状シリーズ17
斯界の権威、前東京女子医大教授・医博市岡四象副会長の著書。グロビュー社刊。
「胃がもたれる、胸やけがする、胃腸薬でも飲んどこう」これで済ませていませんか。胃だと思っていたら、ほかの病気の時もあります。この一冊で、自分の胃をチェックしましょう。(同書カバーより転載)

◎『寄贈・ご紹介のお願い』

会員の著作や編集制作した書籍があまりしなれば、どんな形のものでも結構です。会の備品として大切に保管・貸出ししますからご寄贈ください。

また、会員の著作を紹介してください。逐次、会報で披露したいと思います。

クラス会・郷土会などの紹介

◎午羊会・東京の集い

昭和十八年に入学した同期の午羊会(昭五・六年生)を平成六年六月一日、ホテル・エース高輪で開催。卒業後四十五年ということも広島・関西に声をかけたところ、広島から田部次男・斎藤勝則、関西から藤井経雄・岡村完道・青木昭六・城隆らが馳せ参じ、東京勢の井上隆行・熊本紀・河野淳文・坂井昌彦・名越教之・新見義明・新田俊三・長谷川安弘・本橋重利・森戸昭夫・山田健太郎と合流して大いに氣勢があがった。三分間スピーチでは四十五年間の空白を埋め切れず、しばしばオーバーランしたが懐旧の余韻はいつまでも漂っていた。当然、これでお終いという歌にもいかず二次会、そして三次会は新宿遠征ということになる。思い残しのないよう歌いさざめいた後、来秋の故郷での紅葉狩りを約して丑満刻の散会とあいなった。

有朋自遠方来、不亦楽乎。(S)

◎格致小田会

＊「格致25年卒」の全国組織の同期会です。毎年恩師を招待して庄原地区等で総会を開催します。

昨年度は神戸地区で行いました。

今年度は東京で左記の予定です。

八月二六日 都内観光後、京王プラザホテルで総会・懇親会。

二七日 箱根観光後、熱海・大月ホテルで宴会・宿泊。

二八日 朝食後解散。

飛び入り大歓迎です。谷口、山田両先生ほか会員約50名参加の予定です。

＊「格致小田会(東京)」は、年数回会合します。会員佐近萬之君の六本木・京橋石『美濃吉』が定会場です。一度参加してみませんか。

連絡先 酒井久幸 ○三―三三―五五―八九九五

◎広島県人会

次号で紹介いたします。(次頁中段へ続く)

庄原実業同窓会東京支部総会 に参加して

五月二十九日、第二〇回庄原実業同窓会東京支部総会が、千代田区丸の内・山水楼において開催された。東京格致会代表も招待いただき、会長指示により、友広事務局長・横山幹事長が参加、加藤事務局長補佐も特別参加した。

総会は、二〇回の記念総会で会員のか母校の中谷校長、同会本部長・副会長、近畿支部代表、山水楼社長等々七〇数名の参加があり大盛会であった。

支部長のご挨拶、歴代支部長ほか功勞者三名への感謝状贈呈。校長ほか来賓挨拶。格致会を代表して事務局長は同会二〇回のお祝いを述べ両会の友好交流を挨拶とした。

懇親会に入り、旧友知己の動静、郷里の情報など懇談や杯の応酬の続く中、同校卒業のピクチャー専属歌手・要田勇氏の特別出演、同夫人の舞踊披露などがあり、続いて支部長の「安来節」とY氏の「どじょうすくい」…これが出にゃあ会にならんのじゃけー…と。多芸の士の集まりだとのこと。いやがうえにも会は盛り上がる。

身内の格致卒業生を紹介して下さる方、郷里の小学校同級生の「出現」など、思いがけない嬉しい懐かしい交流が続く。母校庄原実業高校のハムなど特製品や山水楼特選品のお土産を頂戴した。盛大な会に心から感謝・祝意を述べた次第である。(Y)

●東京西城会
西城町出身の皆さんへ！
東京西城会があることをご存じですか。会は発会以来三十周年を迎えました。

年一回総会と郷土の風(神楽・おどり等、西城町の方々による)があります。秋にはバスハイク等で皆様と親睦を深めています。是非一度おいで下さい。

連絡先 兼利卓蔵(西城町五日市出身・格致28卒) 〇四八六一二二一六三三三
●東京峯田村人会
東京「峯田村人会」は峰田町片山出身の故三谷穰さんが、身内だけで続けておられた集まりを、代表世話人の加藤哲治さん(春田町

大原出身・屋号板屋)が中心になって会員を拡大され、一九七七年三谷さんを初代会長として発会された。以来一六年、毎年一回総会を開き、故郷の情報交換をされ、親睦を計っておられる。

会員は東京三二名、神奈川二五名他、千葉・埼玉・栃木・静岡、計八八名の方々。

世話人の加藤さんは「集まるたびに先祖のことが話題になり、遠方のため帰省もままならず、故郷のことが気になります。就職や結婚の世話もし、皆さんが喜んで下さる姿が私の喜び」とおっしゃっています。

(「しょうゆう・第57号」より抜粋・転載)

平成六年度総会の御案内

本年度東京格致会総会・懇親会を左記により開催致します。

万障お繰合せの上、是非ご出席下さいませようご案内申し上げます。

出来るだけ多くの会員各位のご出席をいたたくために種々検討の結果、本年度は週末を選んでみました。どうぞ旧友、知己お誘い合わせの上、多数ご参加下さいませようお願い申し上げます。

なお、準備の都合上、お手数ながら九月二〇日までに同封の葉書で出欠をお知らせ下さいませようお願い申し上げます。

平成六年八月 東京格致会 会長 細川謙三

記

- 一、日時 平成六年十月二日(金) 午後六時三〇分より
- 一、場所 山水楼 千代田区丸の内三一一 国際(帝劇)ビル2F
- 一、会費 〇三一一二二一三四〇一 一〇、〇〇〇円 (学生一五、〇〇〇円)



田端康男氏 (43年卒)

三月二十六日、交通事故で急逝された。氏は、総会参加、基金の拠出、ゴルフコンペ(第九回)等々、格致会の各種活動に積極的に参加され、前途有為の会員であった。御逝去は痛恨の極みである。

ありし日の氏を偲びご冥福をお祈りする。

編集後記

多くの方々の御協力を得て会報第二号。編集を終わって振り返ってみる。第一号の反省から「多くの会員へ、多くの情報を」と考えてみたものの、幅広い会員層のこと、すべての方々に満足頂けるものとは限らないものになったと感じ、そこで更に反省。本号はたまたま「総会」及び「田坂校長の頃」についての特集号のような形になった。この体験から次号からは会員各年次に共通なテーマをもって「〇〇特集」といった形式が良いのでは…例えば「海外特集」「母校一〇〇周年記念特集」「恩師を語る特集」etc.はどうだろうか等と考えるに至っている。

会員諸氏にお願い！ 御意見を、また、どんな情報でも結構ですので、電話一本・葉書一枚でも御連絡頂きたい。是非原稿執筆に当たって頂きたい。会報「第三号」は是非皆様の手で！ (Y)

- 「東京格致会会報」第二号 平成六年八月一日発行
- 発行人 細川謙三
- 編集人 横山鶴雄 友広 寿
- 事務所 東京都千代田区神田淡路町二一三二四 電話〇三(三三九二)四〇二五
- 酒井会計事務所内 電話〇三(三三九二)四〇二五
- 連絡所 東京都練馬区東大泉七二二二八 友広 寿 電話〇三(三三九二)四〇二五
- 振込口座 郵便振替 〇〇二五〇一七二二九五〇
- 年会費 東京格致会
- 基金 第一勧業銀行八丁堀支店 口座番号(普通預金) 10668267 東京格致会 友広 寿